

議 事 録

会 議 名		釧路市障がい者自立支援協議会 第1回教育・療育部会
事 務 局		釧路市福祉部障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター
開催日時		令和7年6月2日（月）13:30～14:20
開催場所		釧路市防災庁舎 5階 会議室B
出席者	部会員	【部会出席者 32 名】 ・池田（部会長）＜釧路市児童発達支援センター＞ ・鈴木・斎藤＜釧路養護学校＞ ・中野＜鶴野支援学校＞ ・友廣＜中標津支援学校＞ ・佐藤・竹石＜ 釧路保健所＞ ・堀井＜芦野保育園＞ ・内田＜釧路市こども育成課＞ ・大物＜釧路市健康推進課＞ ・野村＜市児童発達支援センター野のはな園＞ ・高田＜市立釧路総合病院＞ ・北田＜ふみぞの訪問看護ステーション＞ ・水島＜多機能型通所施設 はばたき＞ ・齊藤＜放課後デイサービス chouchou＞ ・佐藤＜相談支援事業所 ういずけー＞ ・平間＜相談支援事業所 わんだふる＞ ・鎌田＜鶴が丘学園＞ ・原田＜くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センターぷれん＞ ・高橋＜放課後デイサービス かのん＞ ・大和田＜放課後等デイサービス はっぴ～すまいる＞ ・吉原＜放課後等デイサービスだいち＞ （順・敬称略）
	その他	
	傍聴者	なし
	事務局	出席 6名 柿沼・竹谷＜障がい者基幹相談支援センター＞ 西田・柴田・西村・岡崎＜釧路市障がい福祉課＞
会議次第		1. 挨拶 教育療育部会長 池田 和騎（児童発達支援センター所長） 2 議事 (1)釧路市障がい者自立支援協議会の構成 (2)今年度の活動内容 (3)今年度の実施体制と新規部会員紹介 (4)検討事項(上限額管理について) (5)グループワーク 【テーマ:学校に行けない子への支援について】 3. 閉会

議 事 内 容

◎教育療育部会(13：30～14：20)

議 事

(1) 釧路市障がい者自立支援協議会の構成(池田部会長)

- ・組織の構成や教育療育部会の役割、教育療育部会に紐づいた「医療的ケア児者等支援検討会議」と「放課後等デイサービスのつどい」で構成。
- ・本年度は、参集の案内時に協議希望項目を確認する。

(2) 年度の活動内容(池田部会長)

- ・部会 3回(6月、9月、2月)、医療的ケア児・者等支援検討会議 2回(6月・2月)、放課後等デイサービスのつどい 3回(6月・2月)を予定。
- ・10月に雇用就労部会へ放デイのつどいが参加させて頂き、合同で情報交換をする予定。
- ・例年、障害児事業所情報の作成をしており、協力願いたい。

(3) 今年度の実施体制と新規部会員紹介

- ・役員および事務局体制を紹介後、新規加入機関(中標津支援学校および放課後デイサービスはっぴ～すまいる)の紹介あり。

(4) 検討事項(上限額管理について) (池田部会長)

- ・部会員からの協議依頼事項にて、障害児通所支援における報酬請求に関する上限管理の連絡手段について、FAXではなく電子メール等の活用で統一できないかという意見がある。
- 部会内で確認のところ、特段の支障なく、参加者の全員の賛同を得たことから、欠席者の意向確認の上で、意義がなければ教育療育部会の意向として決定していきたい。

(5) グループワーク [テーマ：学校に行けない子への支援について]

5グループに分かれ、テーマに基づいてそれぞれの情報および意見交換を実施。

<主な意見>

- ・放デイには通所しているが、学校には登校渋りする事例は多い。
- ・障害サービスにつなげて登校を促すとともに家庭への支援も必要である
- ・不登校の子の行き場が乏しい。行きたいけど登校できない理由や集団が苦手な子について対応を考えてもなかなか見当たらない。
- ・未就学時から、登園渋りが見られて保護者が苦慮している。
- ・兄弟の世話で登校できない児童もいる。ゲーム依存や昼夜逆転など学校に理由がなくても登校できない背景もある。
- ・学校に居場所がない場合、心地よく感じられる居場所を作れたらよい。
- ・学校の環境変化や担任の変更などが理由の場合、そもそも登校できない子は、不安が強く、その不安からの危機回避がうまい子供という見方ができる。
- ・不登校で困っているのは、本人はもとより親であり、親支援も大事にすべき。

議 事 録

会 議 名		釧路市障がい者自立支援協議会 第 1 回医療的ケア児・者支援検討会議
事 務 局		釧路市福祉部障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター
開催日時		令和7年 6 月 2 日（月） 14:30～15:30
開催場所		釧路市防災庁舎 5階 会議室B
出席者	部会員	【支援検討 参加者29名】 ・池田（部会長）＜釧路市児童発達支援センター＞ ・鈴木・斎藤＜釧路養護学校＞ ・中野＜鶴野支援学校＞ ・友廣＜中標津支援学校＞ ・佐藤・竹石＜ 釧路保健所＞ ・堀井＜芦野保育園＞ ・内田＜釧路市こども育成課＞ ・大物＜釧路市健康推進課＞ ・野村＜市児童発達支援センター野のはな園＞ ・高田＜市立釧路総合病院＞ ・北田＜ふみぞの訪問看護ステーション＞ ・水島＜多機能型通所施設 はばたき＞ ・齊藤＜放課後デイサービス chouchou＞ ・佐藤＜相談支援事業所 ういずけー＞ ・平間＜相談支援事業所 わんだふる＞ ・鎌田＜鶴が丘学園＞ ・高瀬 ・平山＜釧路赤十字病院＞ ・大峠＜相談支援事業所 そよかぜ＞ ・平間・稲澤＜ 相談支援事業所 ソラ＞ ・宮田＜相談支援事業所 らぼーる＞ （順・敬称略）
	その他	
	傍聴者	なし
	事務局	出席 6名 柿沼・竹谷＜障がい者基幹相談支援センター＞ 西田・柴田・西村・岡崎＜釧路市障がい福祉課＞
会議次第		1. 挨拶 教育療育部会長 池田 和騎（児童発達支援センター所長） 2 議事 (1)今年度の活動内容 (2)情報提供 (3)グループワーク 【テーマ:医療的ケア児者支援の課題について】 3. 閉会

議 事 内 容

◎ 医療的ケア児・者等支援検討会議（14:30～15:30）

議 事

(1)今年度の活動内容

- ・部会 3回(6月・9月・2月)、医療的ケア児・者等支援検討会議 2回(6月・2月)、放課後等デイサービスのつどい 3回(6月・2月)を予定。

(2)情報提供「芦野保育園における医療的ケア児に係る園内研修への参加報告」

〔釧路市 障がい福祉課 柴田主査より報告〕

- ・北海道医療的ケア児支援センターセンター長の土畠先生を講師として招聘した研修に参加。
- ・医療的ケア児は、6割が重度心身障害児、3割は歩ける、話せる、知的に問題がない医療的ケア児であり、普通の生活ができる児童が多い。
- ・本人たちは、学校に教育を受けに来ている。医療的ケアを受けに来ているわけではないため、本人ができることで、自立に向けて考えていく。
- ・本来の自立を目指すために、医療職は影となって支えることに徹することとしている。学校の先生がその子の自立を認めると子どものやる気は、医療職に言われるより効果的で達成感が異なる。
- ・蘭越町ケースの紹介、同町は通学途中に近所の助けを求められる体制を構築している。

(3)グループワーク テーマ:医療的ケア児者支援の課題について

- ・就労の場面では、早期の事業所見学を推奨している。
- ・ショートステイ先の確保や医療的ケア児等コーディネーターの人材不足といった課題がある
- ・病院では、喀痰吸引など医療行為に関する特定の研修機会の調整も進められている。
- ・災害時の対応では、避難後の安全確保も含め、実践を重ねながら試行錯誤する必要がある。
- ・家族のレスパイトや兄弟支援のための施設やイベントの充実が求められている。
- ・医療的ケアを受ける子どもが、将来自立する観点が必要である。
- ・看護師雇用の事業所負担があり、自治体雇用などでの検討はできないか。
- ・スムーズなステージ移行、在宅支援やショートステイ先の不足などケア継続の観点からは対応課題が非常に多い。